

趣旨

情報化社会において求められる数理・データサイエンス・AI を保育者・社会人として使うことができる基礎的知識を身に付けます。データや AI を利活用する場面においては、人間中心の倫理観のもとに適切な判断と配慮ができる人材を育成します。

本プログラム修了者には修了証を交付します。

目的

本学学生の数理・データサイエンス・AI に対する興味、関心、学習意欲を喚起し、今後の情報化社会下での幼児教育に不可欠な基礎的知識を全学生に獲得させることを目的とする。

概要

数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの概要については以下のとおりです。

足利短期大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムのねらい：情報化社会において求められる数理・データサイエンス・AIを保育者・社会人として使うことができる基礎的知識を身に付けます。データやAIを活用する場面においては、人間中心の倫理観のもとに適切な判断と配慮ができる人材を育成します。
本プログラム修了者には修了証を交付します。

注目POINT！

『情報処理Ⅰ』と『情報処理Ⅱ』は幼稚園教諭免許取得のための必須科目です。この2科目に選択科目として『教育方法論Ⅱ』を修得することで本プログラムの修了認定となります。

こども学科

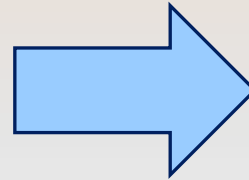
－履修する科目－

情報処理Ⅰ
(1年次 1単位)

情報処理Ⅱ
(2年次 1単位)

教育方法論Ⅱ
(コンピューターリテラシー)
(2年次 1単位)

令和4年度修了者から学内認定開始



本プログラムを履修するために特別な手続きは不要です。
通常通り履修登録をするだけでOK！

これからの第4次産業革命、Society 5.0の社会に必要とされる人材

－修得する学び－

情報モラル
情報リテラシー
データ処理
プログラミング
プレゼンテーション技法
保育現場でのICT活用法

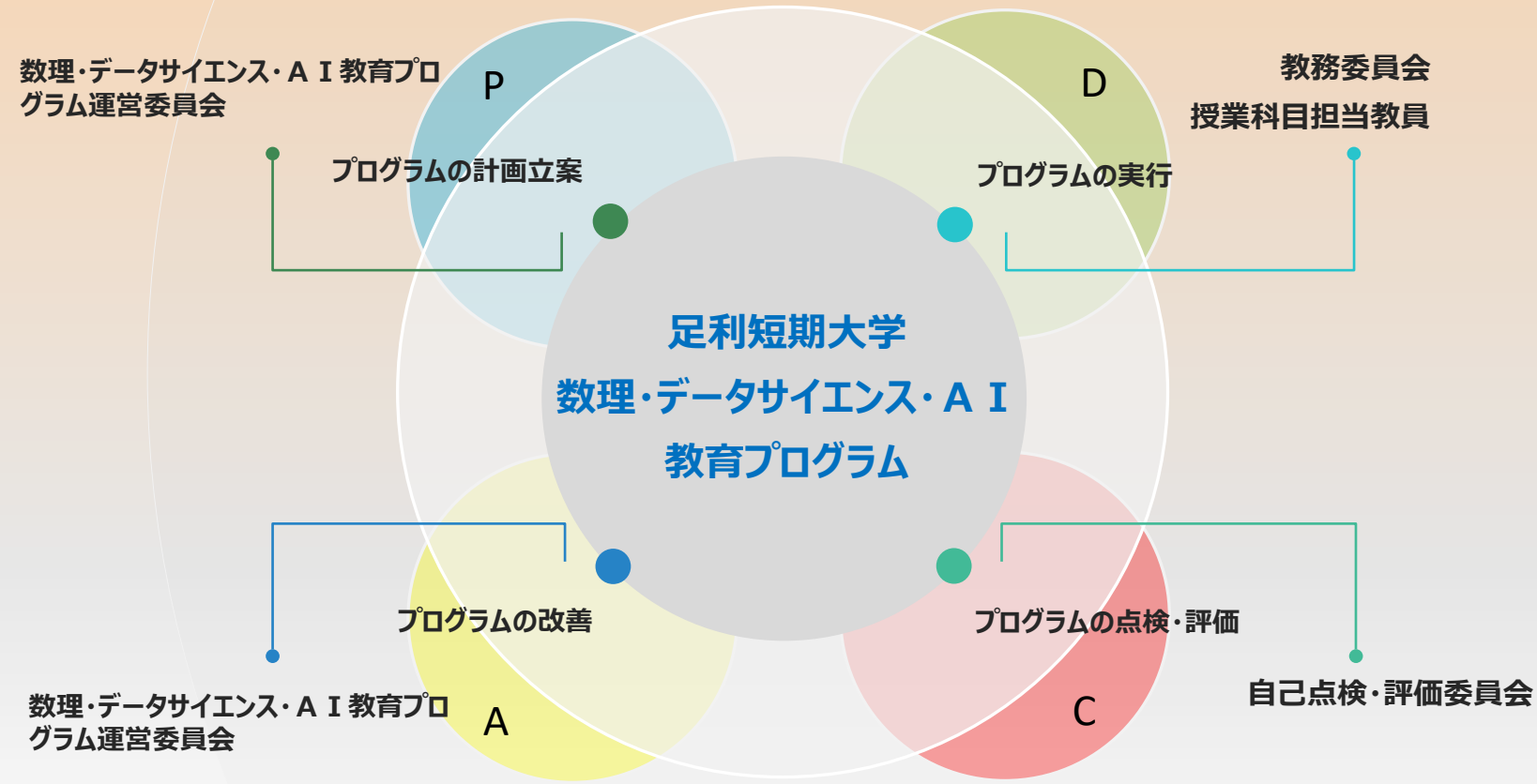
足利短期大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム
カリキュラムマップ (こども学科)

足利短期大学

モデルカリキュラム	授業に含まれている 内容・要素	1 年	2 年	
		情報処理 I	情報処理 II	教育方法論 II
導入 社会におけるデータ・AIの 利活用	現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	○	○	○
	「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	○		○
	様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスクエア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの		○	○
基礎 データリテラシー	実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの		○	○
心得 データ・AI利活用における 留意事項	活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	○		○
選択 大学の特徴に応じた学修	統計及び数理基礎			
	アルゴリズム基礎			
	データ構造とプログラミング基礎			
	時系列データ解析			
	テキスト解析			
	画像解析			
	データハンドリング			
	データ活用実践（教師あり学習）			
その他				

足利短期大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラム実施体制： 本学学生の数理・データサイエンス・AIに対する興味、関心、学習意欲を喚起し、今後の情報化社会下での幼児教育に不可欠な基礎的知識を全学生に獲得させることを目的とする。
本学における数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する諸問題を審議し、プログラムの計画・運営・評価・改善を行う。



P：プログラムの計画立案
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会がカリキュラム編成、プログラム実施方法などを取り決める。

D：プログラムの実行
教務委員会によるプログラム対象科目の履修・修得単位の管理、及び授業科目担当教員による講義の実施

C：プログラムの点検・評価
実行されたプログラムについて単位修得状況や授業評価アンケートに基づき、学長中心に構成される自己点検・評価委員会によるプログラムの点検・評価

A：プログラムの改善
自己点検・評価委員会による評価結果に基づき、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会がプログラムの改善案を検討する。

授業内容・方法

(1) 『現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている』について

インターネットやモバイル端末の普及と、IoT や AI の進化により、日々利用して生活しているサービス（SNS やショッピング、検索サイトなど）をコミュニケーションツールやビジネスツールとして活用されていることを理解する。さらに活用するための知識・技術・能力を身に付けることにより安心して活用することができるようになる。保育の現場に関わる資料等に関するデータを分析することによって新たな価値の創出や問題解決に繋げることができるデータ駆動型社会であることを理解する。

さらに、保育の世界や幼児にも使いやすくする「情報のユニバーサルデザイン」に配慮した製品やサービスについても学ぶ。

(2) 『「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの』について

スマートフォンやパソコンを活用して収集したデータの種類や用語について知り、意味を理解する。情報の活用方法として伝達発信の方

法を身に付ける。

ビッグデータやデータサイエンス、AI が社会や保育現場でどのように活用されているのかを知り、どのようなサービスが可能かを知る。

(3) 『様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの』について

普段から学生が利用している身近なサービスとビッグデータや AI の関係性、利活用について学ぶ。AI 技術が生活やサービス、保育の世界にも広がり持続可能な社会の実現に寄与していることを学ぶ。最適化やシミュレーションについて解説し、データの可視化を表計算ソフトウェアの利用を通して学ぶ。

(4) 『活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI 社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をすること』について

確かな情報を得る知識と個人情報の保護や情報社会のルール、さらにデータを守るうえでの留意事項を理解する。情報倫理やデータ倫理について事例を解説し、問題点について学び、情報モラルや課題解

決のための情報活用能力を深める。課題に取り組む際には、情報倫理について常に意識する。

(5) 『実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの』について

表計算ソフトウェアを利用したデータの集計、可視化や分析について学ぶ。主に保育に関するデータを基に統計情報における正しい理解をしたうえで、データの可視化、不適切なグラフの表現、優れた可視化の事例をもとに実践する。Excel の内容としてはデータの集計、並び替え、ランキング、データ解析ツール（スプレッドシート）、表形式のデータ（CSV）等とする。

プログラムの学修成果（身に付けられる能力等）

情報化社会において求められる数理・データサイエンス・AI を保育者・社会人として使うことができる基礎的知識を身に付ける。人間中心の適切な判断ができ、利活用に置いては倫理上の配慮のもとに適切な判断と説明が身に付く。

履修方法・修了認定

下記の3科目を履修し、その全てを合格（単位修得）することで、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを修了したと認定する。
なお、当該プログラムを履修するために特別な手続きは不要です。

- 情報処理Ⅰ （1年次配置：1単位）
- 情報処理Ⅱ （2年次配置：1単位）
- 教育方法論Ⅱ （2年次配置：1単位）

開講学年・時期	授業科目名			授業形態	担当者
1年前期	情報処理 I			演習	采澤陽子
単位	卒業資格	幼稚園教諭免許	保育士資格		教科書：なし 参考書：保育者のためのパソコン講座（株）萌文書林 2000円+税）
1単位	—	○	—		
評価方法・基準					
定期試験	課題	実技	発表	授業態度	教材：適宜配布
—	60%	30%	10%	—	
◎2/3以上出席しないと評価の対象としない					

授業概要

【授業内容・方法】

情報化社会で必要とされるネットワークや情報倫理の知識を養い、情報検索やソフトウェア操作の技術を身につけることで、情報処理の役割や可能性を理解し、大学生活や社会生活のさまざまな場面でコンピュータを活用できるようになることを目的とする。授業形態は演習を中心とするが、発表の場としてプレゼンテーションを取り入れる。

【フィードバックの方法】

毎時間初めに、前回の復習を兼ねた技術確認テストと解説を行う形でフィードバックを行う。

【授業の到達目標】

- ・インターネットを活用した情報収集力を身につけ、幅広い視野で物事を捉えることができるようになる。
- ・ビジネス文書や文書デザインの作成ができるようになる。
- ・プレゼンテーションについて理解し、プレゼンテーションができるようになる。

週	授業計画	準備学習（予習・復習）	準備学習時間
1	オリエンテーション（Society 5.0 とは、現在利活用しているビッグデータ、IoT、AI、ロボットについて考える、AI 最新技術の活用例）Windows と manaba の基本操作	予習) 高校までに学んできた PC 技術の復習	0.5 時間
		復習) Windows と manaba の動作確認	1 時間
2	Google アプリ - 電子メール、カレンダー、ドライブ、ドキュメント、スプレッドシート 他 -	予習) 電子メール利用の注意事項をまとめる	0.5 時間
		復習) 電子メールの送受信	1 時間
3	情報検索 - 必要な情報の検索方法 - (データ・AI 活用における負の事例紹介、データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方、AI 活用領域の広がり)	予習) 実習園の情報収集	0.5 時間
		復習) 収集した情報の確認	1 時間
4	情報モラルについて考える (データ倫理、情報セキュリティ、パスワード、暗号化 他)	予習) 著作権や肖像権についてまとめる	0.5 時間
		復習) コピペについてまとめる	1 時間
5	Word 基本操作(1)・タッチタイピングと日本語入力 -	予習) タイピング練習	0.5 時間
		復習) 日本語入力練習	1 時間
6	Word 基本操作(2)・タッチタイピングとビジネス文書作成 -	予習) ビジネス文書について調べる	0.5 時間
		復習) タイピングと文書体裁の整え方を練習	1 時間
7	Word 基本操作(3)・文章の体裁を整える -	予習) タイピングと文書体裁の整え方を練習	0.5 時間
		復習) タイピングと文書体裁の整え方を練習	1 時間
8	Word 基本操作(4)・デザインタブを知る -	予習) タイピングと文書体裁の整え方を練習	0.5 時間
		復習) タイピングと文書体裁の整え方を練習	1 時間
9	Word 基本操作(5)・表作成 -	予習) タイピングと文書体裁の整え方を練習	0.5 時間
		復習) 文書体裁の整え方を練習	1 時間
10	Word 基本操(6) - 図形描画 -	予習) 文書体裁の整え方を練習	0.5 時間
		復習) 文書体裁の整え方を練習	1 時間
11	プレゼンテーションについて	予習) プレゼンテーションとは何かを調べる	0.5 時間
		復習) PowerPoint 操作の確認	1 時間
12	PowerPoint 基本操作(1)・画面構成、スライド作成 -	予習) PowerPoint 操作の確認	0.5 時間
		復習) PowerPoint 操作の確認	1 時間
13	PowerPoint 基本操作(2)・アニメーション -	予習) スライドの見え方について考える	0.5 時間
		復習) アニメーションの確認	1 時間
14	プレゼンテーション作成	予習) プレゼンテーション内容を考える	0.5 時間
		復習) プレゼンテーション内容をまとめる	1 時間
15	プレゼンテーション発表 まとめと振り返り	予習) 発表の練習	0.5 時間
		復習) 学んだ技術の振り返り	1 時間

* 担当者からのメッセージ *

各高校で学んだ情報技術の内容が異なるため、皆さんの情報技術を確認しながら進めていきます。毎時間初めに復習を兼ねた確認テストを行いますので遅刻をしないよう注意しましょう。

【オフィスアワー】オフィスアワーは水曜日5コマ目です。質問は「manaba」でも受け付けます。

開講学年・時期	授業科目名			授業形態	担当者
2年前期	情報処理Ⅱ			演習	采澤陽子
単位	卒業資格	幼稚園教諭免許	保育士資格		教科書：なし 参考書：保育者のためのパソコン講座（株）萌文書林 2000円+税）
1単位	—	○	—		
評価方法・基準					
定期試験	課題	実技	発表	授業態度	教材：適宜配布
—	70%	30%	%	—	
◎2/3以上出席しないと評価の対象としない					

授業概要

【授業内容・方法】

情報処理Ⅰで習得した知識・技術・能力等を応用し、保育の現場で使われている資料の作成、データの見方や基本的な考え方、自分でグラフを作成するなどができるようになることを目的とする。使用するデータは、幼稚園や保育園、認定こども園などから頂いた実データを基にする。また、ができるようになること課題に取り組む際には、情報モラルについて常に意識する。ICTを活用した実践的知識とスキルの向上を、演習を通して習得する。授業形態は演習を中心とする。

【フィードバックの方法】

情報処理Ⅰに引き続き、毎時間初めに前回の復習を兼ねた確認技術テストを行う形でフィードバックを行う。

【授業の到達目標】

- ・園だよりや運動会プログラム等、実践に近い文書デザインを作成することができるようになる。
- ・統計的分析やグラフを作成することができるようになる。
- ・保育に必要な情報を収集分析することができるようになる。

週	授業計画	準備学習（予習・復習）	準備学習時間
1	オリエンテーション タッチタイピング、Wordの復習ービジネス文書作成ー	予習) Word技術の復習	0.5時間
		復習) Word技術の復習	1時間
2	情報検索 - 必要な情報の検索方法 -	予習) 就職を見据えた情報収集	0.5時間
		復習) 収集した情報の確認	1時間
3	Wordの復習(1)ービジネス文書作成, 表作成ー	予習) Word技術の復習	0.5時間
		復習) Word技術の復習	1時間
4	Wordの復習(2)ービジネス文書作成, 図形描画ー	予習) タイピング練習	0.5時間
		復習) Word技術の復習	1時間
5	Wordの応用(1)ー園だより作成1ー	予習) 色々なパターンの園だよりを見つける	0.5時間
		復習) 文書体裁の整え方を練習	1時間
6	Wordの応用(2)ー園だより作成2ー	予習) 文書体裁の整え方を練習	0.5時間
		復習) 文書体裁の整え方を練習	1時間
7	Wordの応用(3)ー指導案作成1ー	予習) 指導案の内容を考える	0.5時間
		復習) 文書体裁の整え方を練習	1時間
8	Wordの応用(4)ー指導案作成2ー	予習) 指導案の内容を考える	0.5時間
		復習) 文書体裁の整え方を練習	1時間
9	Wordの応用(5)ー運動会プログラム作成ー	予習) 色々な運動会のプログラムを見つける	0.5時間
		復習) 文書体裁の整え方を練習	1時間
10	Excelの基本操作(1)ーワークシートの見方, 連続データ入力(表形式のデータ)	予習) Excelでできることをまとめる	0.5時間
		復習) 連続データを使ってカレンダーを作る	1時間
11	Excelの基本操作(2)ーデータの入力, 計算方法ー(データの集計, 並べ替え, ランキング 他)	予習) 高校までの数学の復習	0.5時間
		復習) Excelでお小遣い帳を作る	1時間
12	Excelの基本操作(3)ー関数, 統計ー(データの種類, 調査データ)	予習) 関数や統計について調べる	0.5時間
		復習) 授業内で行ったデータの再確認	1時間
13	Excelの基本操作(4)ー表作成, グラフ作成ー(データ可視化, データ表現, データの図表表現 他)	予習) 表やグラフの見方をまとめる	0.5時間
		復習) 表やグラフを作る	1時間
14	Excelの基本操作(5)ーデータベース機能, データ処理ー(データのオープン化, 統計情報の正しい理解)	予習) データベースについて調べる	0.5時間
		復習) データベース機能を使ってみる	1時間
15	まとめと振り返り	予習) 数学の復習	0.5時間
		復習) 学んだ技術の振り返り	1時間

* 担当者からのメッセージ *

保育の現場で生かせる教材やデータを繰り返し作成していきますので、一つでも多くの技術を習得しましょう。

【オフィスアワー】オフィスアワーは水曜日5コマ目です。質問は「manaba」でも受け付けます。

開講学年・時期	授業科目名			授業形態	担当者
2年後期	教育方法論Ⅱ（コンピュータ・リテラシー）			演習	采澤陽子
単位	卒業資格	幼稚園教諭免許	保育士資格		教科書：なし 参考書：保育者のためのパソコン講座（（株）萌文書林 2000円+税）
1単位	—	1単位以上 選択必修	—		
評価方法・基準					
定期試験	課題	実技	発表	授業態度	教材：適宜配布
—	70%	—	30%	—	
◎2/3以上出席しないと評価の対象としない					

授 業 概 要

【授業内容・方法】

これからの社会を生きていく子どもたちや学生のみなさんに求められる資質や能力を育成するために必要な、教育における新しい方法としての ICT 機器の活用等について基礎的な知識や技能を身につける。ICT 教育とは？教育現場での ICT 機器利用の意義と方法について理解を深めることを目的とします。ICT 機器を活用した主体的かつ対話的で深い学びとなるよう工夫された指導案作成ができるよう、段階を経た授業展開をしていきます。

授業形態は、各テーマを中心に演習やディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニングを取り入れて行う。

【フィードバックの方法】

課題等に関しては授業の中で随時フィードバックする。

【授業の到達目標】

- ・教育の目的に適した ICT 機器の利用技術を理解している
- ・教材としての ICT 機器の効果的な活用法を理解し、保育計画に活用することができる

週	授 業 計 画	準備学習（予習・復習）	準備学習時間
1	オリエンテーション - ICT を使用した教育方法の基礎的理論と実践を理解する - （データ・AI の活用領域の広がり）	予習） リテラシーとは何かをまとめる	0.5 時間
		復習） ICT についてまとめる	1 時間
2	ICT を使った教育のあり方を理解(1) 乳幼児と ICT について（人間の知的活動と AI の関係性）	予習） 乳幼児向けの ICT を調べる	0.5 時間
		復習） 幼児の現場での ICT について調べる	1 時間
3	ICT を使った教育のあり方を理解(2) 情報探索（研究開発、サービスなど）	予習） 幼児向けアプリを検索実施	0.5 時間
		復習） アプリが持つ影響について調べる	1 時間
4	ICT を使った教育のあり方を理解(3) 情報整理（AI 等を活用した新しいビジネスモデル）	予習） アプリが持つ影響についてまとめる	0.5 時間
		復習） 実際とまとめた内容の確認	1 時間
5	ICT を使った教育のあり方を理解(4) 情報分析（AI サービスの責任論）	予習） 文献検索	0.5 時間
		復習） 情報をまとめる	1 時間
6	ICT を使った教育のあり方を理解(5) プレゼン	予習） 発表原稿作成	0.5 時間
		復習） 発表の振り返り、質疑応答をまとめる	1 時間
7	ICT を使った教育のあり方を理解(6) 教材や教具としての ICT	予習） 教材としての ICT について調べる	0.5 時間
		復習） 教材としての ICT について考える	1 時間
8	ICT の活用について改めて情報を整理し考えをまとめる（AI 利活用事例紹介）	予習） 幼児と ICT について再検討	0.5 時間
		復習） 検討内容の確認、まとめ	1 時間
9	ICT の活用情報を整理しプレゼン	予習） 発表原稿作成	0.5 時間
		復習） 発表の振り返り、質疑応答をまとめる	1 時間
10	SNS の機能や情報モラルを踏まえた教育方法のあり方を模索（情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介）	予習） SNS のモラルやニュースをまとめる	0.5 時間
		復習） 他の発表者の内容をまとめる	1 時間
11	子ども理解に基づいた指導法と評価の考え方を理解	予習） 保育現場での ICT についてまとめる	0.5 時間
		復習） ICT を活用した指導案を作成	1 時間
12	保育を構成する基礎的な要件を理解し、指導を作成	予習） 指導案内容の見直し	0.5 時間
		復習） 指導案を完成させる	1 時間
13	ICT を使った模擬保育を行い、基礎的技術を身に付ける	予習） 模擬保育の練習	0.5 時間
		復習） 模擬保育の振り返り	1 時間
14	プログラミングやコンピュータを搭載した機器に触れる	予習） コンピュータ搭載機器を調べる	0.5 時間
		復習） 実際に触れて気づいたことをまとめる	1 時間
15	まとめと振り返り	予習） これまでの学修を受け意見をまとめる	0.5 時間
		復習） 学んだ内容の振り返り	1 時間

* 担当者からのメッセージ *

自らの経験や授業の体験を通して教育方法の実践的理解を深めつつ、情報化社会に必要な情報活用能力の探究と、自分の意見や考えを持つことに努めてください。

【 オフィスアワー 】 オフィスアワーは水曜日 5 コマ目です。質問は「manaba」でも受け付けます。

プログラムの点検・評価

実行されている当該プログラムの点検・評価・改善等の報告については以下をご確認ください。

足利短期大学

「足利短期大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」
に係わる自己点検・評価書

令和5年5月

足利短期大学 自己点検・評価委員会

1. 自己点検・評価の実施

令和2年度から学内認定を開始した「足利短期大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」および関連科目に関する点検・評価を実施した。当該教育プログラムの点検・評価については、自己点検・評価委員会が主体となって実施した。点検項目等については、文部科学省が実施している数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の申請様式に準拠し、自己点検・評価を行った。

自己点検・評価の結果については、足利短期大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会（以下、「運営委員会」）および教務委員会と情報共有する。

2. 自己点検・評価の対象

教育プログラム全体の点検・評価については、上述のように文部科学省の申請書に準拠し、「プログラムの履修・修得状況」、「学修成果」、「学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度」、「学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度」、「全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況」、「教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価」、「産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見」、「数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること」、「内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること」を対象とした。

3. 自己点検・評価結果

（1）学内からの視点

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	開講している全ての科目の履修・取得状況は、教務課に登録されている情報によって把握することができる。教育プログラムを構成する科目の履修・取得状況についても教務課のデータを活用して分析を進めている。また、本学で導入しているLMSを活用することで、受講者毎の講義演習進捗状況や課題への取組状況を把握することができる。 『情報処理Ⅰ』と『情報処理Ⅱ』は幼稚園教諭免許取得のための必須科目に置かれているためほぼすべての学生が履修し修得している。『教育方法論Ⅱ』に関しては選択科目であるため学生に分かりやすい内容を提示し受講生増加を図る。
学修成果	本学では全科目について受講生全員による授業評価アンケートを行っている。令和4年度のアンケート結果を見ると、『総合的な満足度』や『授業への興味や関心』についてはどの科目も85%以上となっていたため、授業展開については引き続き高い

	<p>関心を持てるような展開を検討していく。学修成果については、情報処理Ⅰに関しては平均点が80点を超えていることからアンケート結果と比例して高い学修成果が得られていることが確認できたため引き続き努力していく。情報処理Ⅱや教育方法論については、アンケート調査や学習成果を把握することで教育プログラムの評価・改善につなげることができる。</p>
<p>学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度</p>	<p>本学では全科目について受講生全員による授業評価アンケートを行っている。学生の内容の理解度はアンケート項目にある『授業内容への興味や関心が深まっていますか』や『授業内容は今後役に立つと思いますか』、『説明、指導、アドバイスなどは適切ですか』等で判断している。</p>
<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>学生による授業評価アンケートの総合的な満足度で判断すると、すべての科目で満足度は高く90%を超える評価を受けている。履修生の満足度が高まっていること、また「おもしろかった」というコメントも考慮すると、後輩を含む他の学生への推奨度も高まることが期待できる。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>選択科目となっている「教育方法論Ⅱ」については、必修科目である「情報処理Ⅰ」と「情報処理Ⅱ」の授業内や個別相談を通じて学生に履修を促している。</p>

(2) 学外からの視点

<p>自己点検・評価の視点</p>	<p>自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等</p>
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>卒業生の多くが保育や福祉の現場に就職している。短大で身に付けた知識や技術をいかし、保育の現場でHPやSNSへの配信、WordやExcel、PowerPointなどの技術を活用した情報発信担当として活躍していると園長から報告を受けている。エビデンスとして、附属幼稚園での活躍状況を別紙に沿える準備をする。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学教員全員が理事を務めている「足利幼児教育研究会」の中で検証していく。年に2回行われる研修会で保育現場で活用されるICTについての講演やアンケート調査などを行う準備を進める。</p> <p>足利幼児教育研究会は、幼児教育の質をたかめるため、現場、行政、本学（養成機関）が三位一体となり発足させた全国的にも珍しい研究会である。</p>

(3) その他

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本学の学生は卒業後の進路に明確な目標を持っていることから、授業内でできるだけ数理・データサイエンス・AIが職業にいかに関活用されているか実例などを使って説明している。また学生自身が新たな気づきや発見ができるよう授業を展開することで、授業アンケートにも記載された「おもしろかった」に繋がり、学生の興味関心や学ぶことの意義を高めている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	多くの学生が就職する保育の現場に関するデータを用いることで学びの意欲に繋げることを心掛けている。また、毎時間の課題や技術テストの結果をもとに次の授業の展開を考えている。そうすることで学生の理解度に合わせた授業展開にすることができ、「分かりやすい」授業としている。授業評価アンケートの意見も参考に改善を図っていく。